

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：4・5歳児クラス)

モニカ荏原中延園

M  nica

テーマ

光と影

設定理由

- 戸外へ行った際に”影”の存在に気づき、「なんでついてくるの?」「形が違って面白いね。」「自分が動くと、こっち（影）も動く・・・!」と話す姿が見られ、影への興味関心が感じられた。
- プロジェクターを使用した際、どこから映し出されているのかやスクリーンの前に立つとどうなるのか等に興味を示していた。

対象クラス

4～5歳児クラス・20名

活動のねらい

光と影の関係性に気づき、その不思議さや面白さを知る

問い

「光ってなに?」
「影ってどうしてできるのかな?」

活動期間

令和7年11月～令和8年2月

活動回数

計4回

活動①

光と影について考え、身近なものを使って影を作ってみる

活動内容

「光ってなんだろう」「影ってなんだろう」と子どもたちから光や影のイメージを聞き、光と影の具体例を引き出す。その後、「光って作れるかな?」「どうやったら影を作れる?」とみんなで話し合い、身近にある玩具を使って実際に影を作る。さらに卓上ライトを用いて様々な形の影を作ることを楽しみ、光の当たり方によって影が変化すること、光によって影が作り出されることに気付く。

<3歳児または4歳児保育室>

※窓には暗幕、ドアの小窓には白画用紙を貼る

※ピアノや棚は保育室の外に出しておく

※影を映し出す壁（トイレ側）と、影を作る机には白模造紙を貼る



※玩具と卓上ライトは影を作るタイミングで持ってくる

使用物

玩具(ままごとの人形と皿) | ブリオの橋と電車
積み木一式 | 椅子の積み木 | 丸型の積み木
砂時計 | 木のおはじきやキノコ | カプラ
透明コップ | 卓上ライト(2)
絵本『かいちゅうでんとう』『ぼくの影をさがして』

活動②

影遊び

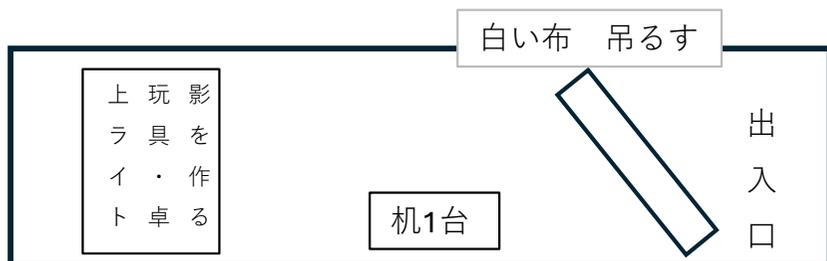
活動内容

1回目の活動を振り返り、光と影についての気付きや疑問を再度共有する。暗くした室内でライト（卓上ライト×3、クリップライト×1）を使用し、様々な影を作り出す。自分でライトや物体を動かすことで、影の形が変化・伸び縮みすることや、光を通す素材であれば光に色が付くことなどを楽しみ、光と影の関係性への探究を深める。

<3歳児または4歳児保育室>

※窓には暗幕、ドアの小窓には白画用紙を貼る

※ピアノや棚は保育室の外に出しておく



使用物

1回目で使用した玩具(子どもの興味が強かったものを抜粋する) | ジュエル積み木 | 卓上ライト(3)
クリップライト(1)

活動③

光と影の世界を描く

活動内容

1回目・2回目の活動を振り返り、光と影の関係性について気付いたことや感じた事を再度共有する。その際前回の活動時に撮影した写真や動画を見て、振り返りをする。その後、印象に残っている記憶を、画用紙（白・黒）、絵の具を用いて絵に描き表現する。

絵の具セット：絵の具15色（黒は除く）
筆（大・小）・筆洗バケツ筆を拭く布巾
画用紙は白と黒を用意し、好きな方を選んでもらう

使用物

絵の具 16色セット(5) | 筆 大・中・小(5) | 筆洗バケツ(3)
筆を拭く布巾 (5) | 画用紙(白・黒)

机の上に
絵の具セットを
用意しておく

机1台

机1台

活動④

OHPで影との遊び・表現

活動内容

OHPを用いて、前回の素材を組み合わせ使用し、様々な影を映し出したり、影の中に入り込んだりして遊ぶ。その中で自分がイメージするものを、光と影を用いて表現する。

<3歳児または4歳児保育室>

※窓には暗幕、ドアの小窓には白画用紙を貼る

※ピアノや棚は保育室の外に出しておく

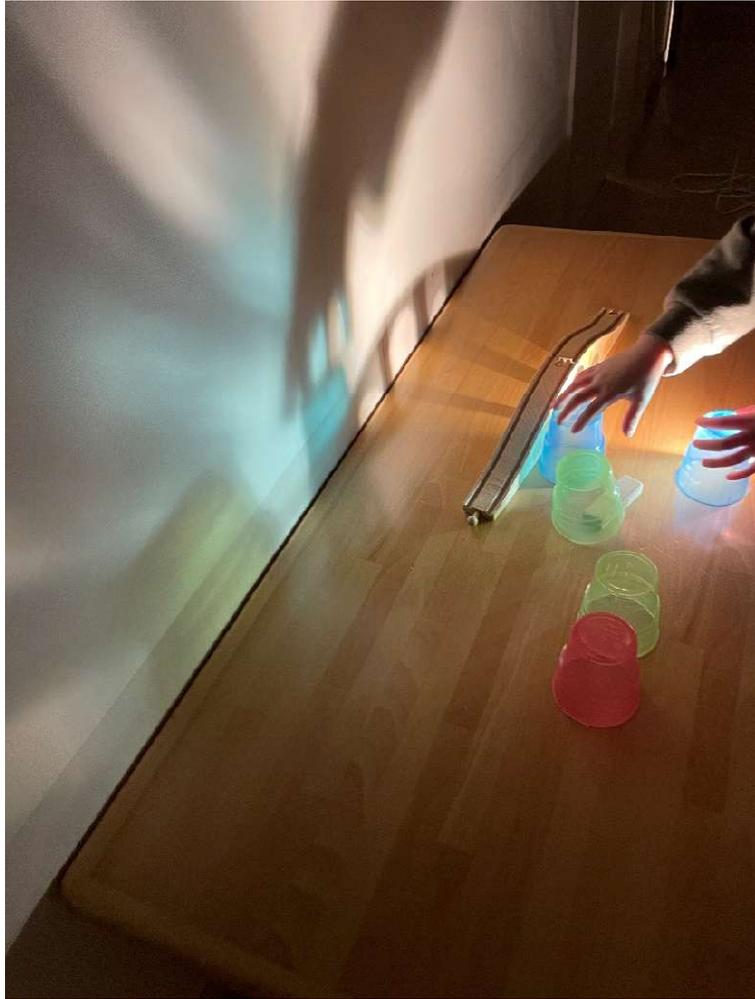


使用物

OHP | 影を作る素材 (2回目と同様のもの)

光を通す素材 (ジュエル積み木)

影の色



玩具とライトを使った影遊び。
光を当てる場所を変えるとどうなるかな？
玩具を動かすと影はどうなるかな？

考えて、試行錯誤しているうちに・・・
透明のコップだと影に色が付くことに気が付きました。

「あれ？なんで赤くなるの？」
「夕日みたいだね。」
「積み木の影は黒なのに・・・。」
「わかった！コップはキラキラしているから、色が付くんだ。」

「重ねてみたらどうなるかな？」
「もっと前に動かしてみたら？」
「青が濃くなった！」
「光に近付くと影が大きくて、離れると小さくなる。」
「光から遠い方が影ははっきり見えるのかも。」

今回の発見や疑問を元に、さらにたくさんの“光と影”の不思議や面白さを見つけていきたいです。

R7.11.14 らいおん・いるか組 大石

光と影の世界

光を当てると、影がうまれました。

「影に色がついてるよ。」

「どうしてだろう？」

「違う色を重ねると、色が変わるよ。」



「こっちの影はどうして黒いの？」

光を手を持って動かしてみると・・・

「影も動いた！」

「光と反対に動くんだ！」



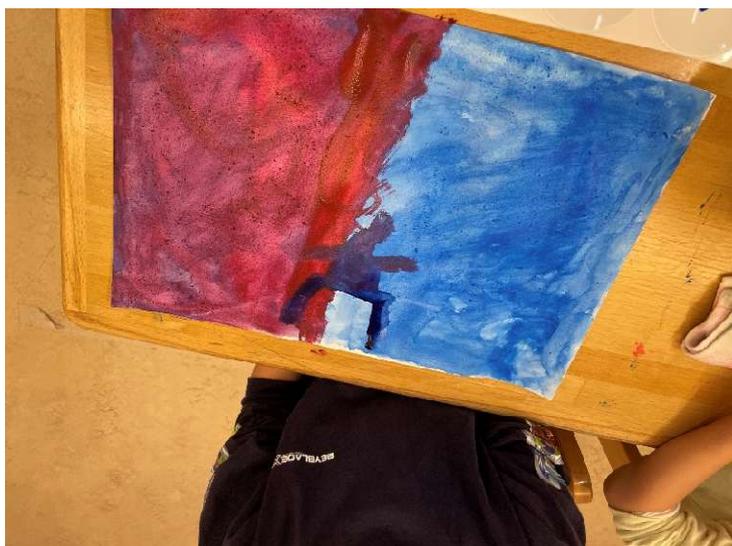
光を当てるとキラキラする！
魔法みたいに周りの色が変わるよ。

探求を通して光と影はいつも一緒にいること
光を通す素材と通さない素材によって影の色が違うこと
光の動きによって影は変化することに気が付きました。

見えたもの



キラキラして綺麗なジュエル積み木のお城



マグマの世界と水の世界に行った僕

—同じ体験から自分の表現へ—
同じ光や影を見ていても、
見えた色、思い浮かんだ世界、表したい形は
それぞれ違います。

感じたもの



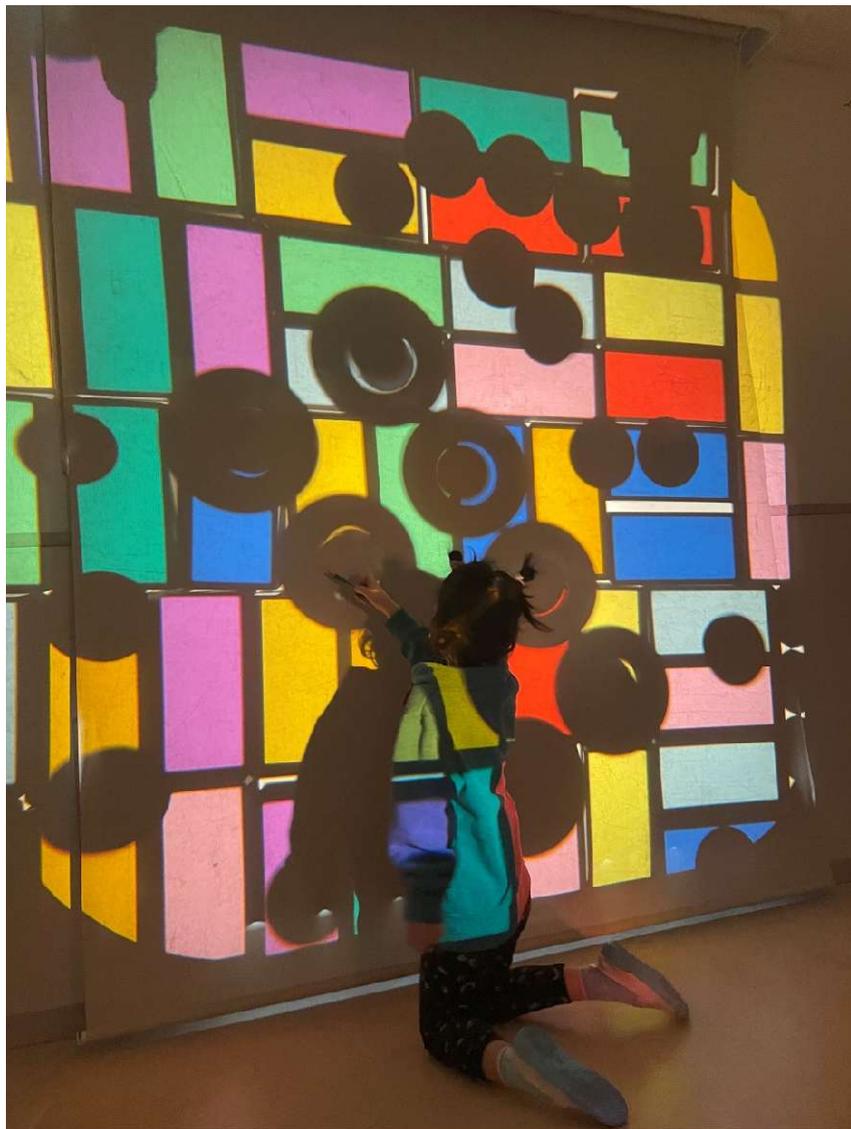
青い光でも色がちょっとずつ違った



赤の世界にはちょっとだけ青があった

影をまとう

R8.2.20 らいおん・いるか組 大石



影の世界に足を踏み入れてみました。

「あ！僕の体が虹色になった！」
「(積み木を重ねると) どんどん色が変わっていくよ。」

「みてみて！」「こっちにおいでよ！」
発見を分かち合う声が響きます。

友だちが置いた積み木の影の中に、別の子が自分の影を重ね合わせる。
そんな偶然生まれる形や色の変化が、子どもたちの想像力をさらにかき立てていました。

自分自身の影が作品の一部になる不思議さを全身で楽しみながら
光と影の境界線に触れようとする、幻想的で創造豊かな時間となりました。

全体の振り返り

身近にある「影」への素朴な疑問から始まり、「光があるから影ができる」という因果関係の発見、そして「光を操ることで表現が変わる」という創造的活動へと発展した。最初は「黒いおばけみたい」といった抽象的な発言が多かったが、ライトを動かす試行錯誤の中で「光が動くと影も動くんだ!」「透明なものだと色が付く!」といった、科学的な気づきを伴う言葉へと変化していった。こうした気づきを土台として、最終回のOHP遊びでは、影の中に入り込むことで「自分自身も表現の一部になる」というダイナミックな展開が見られた。光と影の世界を客観的に見る段階から、その世界に没入して遊ぶ段階へと探究が深まった。

終





株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ荏原中延園

〒142-0052
東京都品川区東中延1-6-2
TEL:03-6421-6740
FAX:03-6421-6741